

令和6年度 第1回 横浜みなとみらいホール指定管理者選定評価委員会 会議録

- 1 日 時 令和6年8月28日（水） 15時00分～16時57分
- 2 場 所 横浜みなとみらいホール レセプションルーム
- 3 出席者 伊藤 裕夫 委員長、石田 麻子 委員、佐々木 豊子 委員、箕口 一美 委員、
吉本 光宏 委員
- 4 欠席者 無し
- 5 傍聴者 無し

6 議事内容

議題	<ol style="list-style-type: none">1 定足数の確認2 委員会の公開・非公開について3 審議事項：「令和5年度業務評価」
議事・ 委員意見等	<ol style="list-style-type: none">1 定足数の確認 「横浜みなとみらいホール指定管理者選定評価委員会運営要綱」第7条第3項に基づき、委員数5名のうち5名の出席により定足数を満たしており、会議の成立を確認した。2 委員会の公開・非公開について 横浜市の保有する情報の公開に関する条例第31条及び横浜みなとみらいホール指定管理者選定評価委員会運営要綱第9条に基づき、「令和5年度業務評価」の審議については公開とした。3 審議事項：「令和5年度業務評価」<ol style="list-style-type: none">(1) 指定管理者による業務報告及び自己評価 指定管理者から、令和5年度の実績及び自己評価についての説明があった。(2) 行政評価について 評価表に基づき、事務局から行政評価の要点について説明があった。(3) 委員による評価 委員から指定管理者に対する評価内容の説明及び質問を行った。 <p>《評価内容の説明》</p> <ol style="list-style-type: none">1 「使命1 市民が多様な音楽に親しむ機会を提供し、国内外から高い評価を受ける創造・創作の拠点となります。」について <p>《質疑》</p> <p>委員 アーカイブにした事業の選定理由が知りたい。</p> <p>指定管理者 アーカイブに「横浜国際招待ピアノコンクール」を選んだ理由は、1982年にこの事業が始まり、横浜みなとみらいホールがリニューアルオープンした2022年に40周年を迎え、この節目を生かしてこの事業からアーカイブ化していこうと考えた。次の取組として、現代作曲家シリーズのJust Composedを取り上げたいと考えている。世界に発信できる作曲家の方々に委嘱し続けているので、アーカイブを通じて紹介していきたい。来年度の取組では、令和6年度</p>

末で250回を迎えるパイプオルガンの活動を紹介できればと考えている。

委員 事業モニターとは何か。

指定管理者 事業モニターとは、今期の指定管理から始めた新しい取組で、年代や性別などを考慮したモニター30名に当館の主催事業の視察を行ってもらい、鑑賞後にアンケートに答えてもらうというもの。年度末に懇談会を行い、モニターと対面で直接意見をうかがうことが大きな特徴。お客様の声を直接うかがうことによって、今後の事業内容や運営の参考となっている。事業内容が重ならない公演を当館で選定し、令和5年度は、「横浜うたまつり」、「クリストフ・エッシェンバッハ指揮 ベルリン・コンツェルトハウス管弦楽団」、「Dive into the Future」、「石田組年末感謝祭2023」の4公演を視察対象とした。

委員 事業モニターの結果はどうだったのか。

指定管理者 当館の事業の趣旨をよく理解していただけたという印象がある。賛否両論がある「Dive into the Future」では、「前衛的で非常にやる意味のある公演だ」という好意的な意見があった一方、「やはり自分には合わない、ちょっと暗くて怖かったです」といった意見もあった。また、「家族と一緒に鑑賞して、息子が面白かったと言ったのを聞いて、こういった公演もありかなと鑑賞の捉え方が変わった」と答えたモニターがいた。その心境の変化は、直接意見をうかがう機会がないと聞けない意見なので、非常に貴重な意見だった。また、「チラシをもっと分かりやすくしたほうがよかった」など、具体的な意見もあり、今後、事業を実施する際の参考にしていきたい。

委員 プロデューサー in レジデンスのプロデューサー委嘱期間が2年で適切なのかうかがいたい。

指定管理者 期間が2年で適切かは様々な意見があるが、当指定管理期間は2年の任期で考えている。

【評価する点】

- ・クラシカル公演やポピュラー公演ともに公演数、入場者数が達成指標を超えて、積極的に取り組んでいる点。
- ・プロデューサー in レジデンス事業では、藤木大地氏と反田恭平氏の発信力が発揮されて、予定を上回る事業を実施した点。
- ・アーカイブ作品を公開することで、横浜みなとみらいホールに残る財産として、後世に引き継いだ点。
- ・「Dive into the Future」で、ジャンルにとらわれず新しい音楽を提供してコンサートのフォーマットから更新する取組を行った点
- ・25周年音楽祭は、将来を期待されるJNOや池辺晋一郎の初演作品もあり、横浜みなとみらいホールならではの企画力が発揮された点。
- ・主催、共催を組み合わせ、ポピュラーなどを含む多彩なプログラムが取りそろえられている点。

【更なる取組を期待する点】

- ・プロデューサー in レジデンス事業について、事業開始から年数が経っているので、できたこと、できなかったことの整理を行い、1回振り返りをしていただきたい。また、プロデューサーの企画力、発想力から学んだ部分について、ホール内でも職員の人材育成に役立ててほしい。
- ・アーカイブ事業は、公演事業を行う際と別のスキルで展開していくため、可能な範囲で事業を進めていただきたい。
- ・ホール独自の企画公演が継続的に行われ、他ホールをリーダー的に引っ張っていただきたい。

2 「使命2 市民や文化団体の音楽活動を支え、音楽専門ホールとしての活動の場を提供します。」について

《質疑》

委員 利用者アンケートの分析結果等があれば教えてほしい。

指定管理者 市民団体へのアンケートでは、アマチュアの団体・個人利用を中心とした500団体を対象に調査を実施し、回収率は3割だった。アンケートでは、利用団体の設立経緯、構成人数、活動内容、活動場所、活動費、課題など利用団体の状況を把握する内容やホールに対する期待を調査した。調査結果の公表は予定していないが、横浜市と共有すると事前に伝えて聞き取りを行った。調査結果から、公演や練習をする場所の確保が課題と感じていたり、広報・PRに課題を感じている団体がいることがわかった。また、対面式で実施している抽選方法に対する要望もあったので、取り組むべき課題として、今後の運営の参考にしたいと考えている。

【評価する点】

- ・プロフェッショナルの公演数が年度予定の90公演を上回る95公演を実施できた点。
- ・利用率について、大ホールが95%、小ホールが98%と音楽専用ホールとして高い利用率となっている点。
- ・演奏する市民に向けてサービスをきちんと行っている点。
- ・満足度アンケートの利用者満足度が非常に高い点。

【更なる取組を期待する点】

- ・リハーサル室や音楽練習室、レセプションルームは、令和8年度達成指標に届くように取組を進めていただきたい。
- ・市民利用団体に対して、スムーズな貸館利用の提供のほか、可能な範囲でアドバイスも行うことで関係性を育み、市民利用団体にとっても横浜みなとみらいホールで公演をすることが活動の継続や発展につながるきっかけになるよう、ホールの取組に期待する。
- ・事業モニターの結果と分析、対応結果について選定評価委員会の際などに委員へ報告いただきたい。

3 「使命3 次世代を担う芸術家や音楽と社会をつなぐ人材を育むとともに、音楽に親しむ市民の裾野を広げます。」について

《質疑》

委員 定量指標に掲げている、子ども（高校生以下）の来館者数について、目標人数を高く設定した理由など、自己分析があれば教えていただきたい。

指定管理者 子ども（高校生以下）の来館者数は、子育て世帯をサポートしていくという市の政策に共感し、目標人数を高く設定したが、設定の認識が甘かったと感じている。大ホール公演の公開リハーサルでの実施などを想定して目標人数を設定したが、事業費の関係で取り止めなければならない事業が多かったという事情もありつつも、残念ながら指標達成できなかった。また、高校生以下の人数のカウント方法が、チケットで確認できないようなシステムだったので、改めて、そこも含めて、より確実に人数が分かる方策を立てるようにしていきたい。

委員 中学生プロデューサーについて、自己評価での課題として、中学生プロデューサーの継続参加者について書かれているが、これを課題だと認識しているのか、また、どういう観点で課題だと思われたのか。

指定管理者 中学生プロデューサーの継続については、指導内容が2年目以降で全く同じ内容での指導にならないよう工夫して取組必要があると課題に感じている。

【評価する点】

- ・次世代の演奏家の育成だけではなくて、アートマネジメント人材を育成することも並行して行っている点。
- ・将来の音楽家としての活動を支え、また、音楽ホールの運営に携わる人材を育成している点。
- ・市民参加型の事業と演奏家やスタッフの次世代育成事業をいずれも次世代を担う若手層と位置づけて、1つの使命の中で実施している点。
- ・演奏する人、聴く人、つくる人と固定しがちな立ち位置を越えて、柔軟に自由に音楽に親しむというホールの姿勢が良く反映されている点。
- ・横浜みなとみらいホールが、中学生や大学生に対して、様々な活躍の場を与えており、次世代を担う層の育成の場となっている点。

【更なる取組を期待する点】

- ・ホールオルガニスト制度について、パイプオルガンがある横浜みなとみらいホールならではの事業なので、継続して実施していただきたい。
- ・将来の日本の音楽界を支えるようなトップレベルの演奏家や音楽家の発掘や育成につながるようなプログラムも視野に入れて取り組んでほしい。
- ・中学生プロデューサーについて、3年間事業が継続しているので、振り返りや事業の見直しに向けて中間評価を実施していただきたい。

4 「使命4 年齢、性別、国籍、言語、障害の有無、経済的状況等にかかわらず、あらゆる人たちが音楽に触れる機会を創出する。」について

【評価する点】

- ・ソーシャルインクルージョン事業について、「ミュージック・イン・ザ・ダーク」等のマニュアル化を行い、他施設との共有財産として取り組んでいる点。
- ・0歳からのコンサートや特別支援学級向けの事業は、きめ細かい対応を求められることが多いなか、積極的に取り組んでいる点。

【更なる取組を期待する点】

- ・何が重要か優先順位を付けて、職員体制でキャパオーバーにならないように勘案しながら、一つひとつ丁寧にやっていただきたい。

- ・ソーシャルインクルージョン事業について、対象となる方に公演情報が届くか、来場するまでの交通手段の問題など、ホールだけでは解決できる内容ではないため、市内のNPOなどの団体と連携して検討していく必要がある。一挙に解決できる話ではないため、徐々に進めていっていただきたい。
- ・障害者、高齢者、子どもを対象とした事業が盛んになってきているが、外国人や経済的な格差などに対応した事業を展開していくことについて、可能な範囲で、検討していただきたい。特に横浜の場合は、在住外国人の方、外国にルーツがある人が非常に多いと思うので、この辺へアプローチする取組というものも新しい事例としてチャレンジしていただきたい。

5 「使命5 利用者の視点に立ち、持続可能性を高める施設運営を行い、地域社会に貢献します。」について

《質疑》

委員 収支予算書及び報告書について、収支の差引きが赤字になっている予算書は初めて見た。通常あるものなのか確認したい。

指定管理者 指定管理者としても、令和5年度予算を組むときに、収支均衡を図るべきだと考えていた。エネルギー単価等高騰に伴い光熱水費の予算が組みにくいこともあり、どうしても赤字予算を組まざるを得ないと、横浜市と横浜市芸術文化振興財団の事務局へ相談した。横浜市からは、予算を組むに当たっては予算の改善計画を立てるべきということで、予算の改善計画書を提出した上で、了承された。

横浜市 本市としても、基本、赤字になる予算、決算を認めているわけではない。指定管理者より改善計画の提出を受けて了承した。事業を充実させることは良いことだが、ある程度、予算の収支均衡を見ながら事業を実施するところは、本市としても改めてお願いしたいところであり、行政評価としても表した。

委員 決算の赤字は次の年、その次の年に解消できるのか。

指定管理者 横浜市芸術文化振興財団では、複数の施設を管理運営している関係で施設単位での決算額の繰越しというのは行っていない。赤字の補填については、財団全体で調整した。

委員 東海国立大学機構との共同事業は何か。

指定管理者 インクルーシブ事業のだけでもピアノを活用した事業で、65歳以上のシニアの皆様の心と体のウェルビーイングを、ピアノレッスンによってどのような変化があるのか共同研究で実証実験を行った。

【更なる取組を期待する点】

- ・利用者目線に立ったサービスの向上に加えて、安心安全というのが何よりも大切である。常に危機感を持ち、日頃の心構えを大切にしていきたい。
- ・文化庁の補助金は、特に最近、減少してきている。補助金が確保できないという話をよく聞くので、そのリスクがあるということを把握して運営につなげていっていただきたい。
- ・事業支出について、予算の範囲内で良い企画をやるということに努めていただきたい。

	<ul style="list-style-type: none"> ・カスタマーハラスメント対策は、職員を守るためにもホール一体となって積極的に取り組んでいただきたい。 ・横浜で唯一、都市のブランディング確立にも資するような活動をしているホールだということのプライドを持って、ぜひ活動を継続していただきたい。 ・ホールの広報というのは、ホールで行う公演事業PRと券売促進ということが広報の役割の全てではない。横浜みなとみらいホールの良いところを知ってもらうため、どのような活動を行っているのか伝えることを重点に広報活動をしていただきたい。 <p>6 「総括」について</p> <p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・非常に現場が工夫して様々な事業に取り組まれている。市と財団との協力関係を強く組んで進めていただきたい。 ・予算はないが、事業自体はきちんと育ててきているため、今後は、事業を支えていく体制をしっかりと整えて、継続につなげていただきたい。 ・使命を一つ一つ達成すべく積み重ね、様々な事業や運営の積み重ねが行われている。令和5年度に引き続き、令和6年度もこの使命をぜひ達成すべく着実な運営、事業を積み重ねてほしい。
<p>まとめ</p>	<p>本日の委員会で確認した内容を踏まえ、各委員は評価シートを改めて清書し、事務局で調整の上、委員会の最終評価内容としてまとめることとする。また、議事録については委員長確認後に確定のうえ、公表する。</p>